



(題字は初代学長 山田守英氏)

# 第 145 号

平成23年 5月31日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



(写真撮影：生理学講座 高井 章 教授)

新入生を迎えて……………吉田 晃敏………… 2	医学科第 1 学年 朝倉 峻介………… 11
陽春の日に新入生を迎えて……………高橋 雅治………… 5	医学科第 1 学年 佐々木 有………… 11
国立大学に入学した責任について…服部ユカリ………… 6	看護学科第 1 学年 大長 昂………… 12
平成23年度医学科入学者名簿…………… 7	看護学科第 1 学年 山田 美穂………… 12
平成23年度看護学科入学者名簿…………… 8	外国人留学生在籍者一覧…………… 13
平成23年度看護学科第 3 年次編入学者名簿…………… 8	平成23年度大学院入学者名簿…………… 13
新入生を迎えて	平成22年度 学位記授与式 …………… 14
医学科第 6 学年 多田 裕樹………… 9	平成23年度 入学式 …………… 14
看護学科第 4 学年 梅澤 晴花………… 9	平成23年度 医学科・看護学科新入生合同研修会 …… 15
旭川医科大学に入学して	教員の異動…………… 15
医学科第 1 学年 齋藤 僚太………… 10	医大祭2011 “UNIverCity” 開催に向けて
医学科第 1 学年 長谷川 楓………… 10	…………… 萱場幸太郎………… 16



平成23年度入学式 学長式辞

# 新入生を迎えて

学 長 吉 田 晃 敏

(今回はご要望により、2011年4月6日に行われた入学式学長式辞を原文のまま掲載いたします。)

本日は、未曾有の大震災直後という厳しい状況下ではございますが、ご来賓、並びにご父母の皆様のご列席の元、入学式を挙行出来ます事を大変幸せに思っております。被災地では、今、多くの医療従事者が懸命に活動している最中でもあり、私は、本日の服装をモーニングではなく、この様な服装でこの式に臨みました。被災者と医療従事者に、私なりに配慮致しましたが、私の、新入生皆さんに対する歓迎の気持ちには変わり有りません。

さて、本日晴れて入学された医学科第一学年112名、看護学科第一学年60名、同じく看護学科第三学年編入生10名の皆さん、本学を代表し、ご入学を心から歓迎致します。

今回の大震災では、多くの尊い命が失われ、今なお、1都16県の約2,000カ所にもおよぶ避難所で、17万人を超える方々が避難生活を余儀なくされております。現地では、今も、本学を始め道内各地からの多数の医療関係者が、被災された方々のケアに当たっているのは皆さんご承知の事と思えます。

日本を襲った、最悪の大震災を目の当たりにして、皆さんもきっと何かしたい、何をすればいいのかと、今、真剣に考えているのではないのでしょうか。

義援金を募る活動に参加するのもいいでしょう。ボランティアに参加する事も素晴らしいと思います。是非そうしてほしいと願います。その上で、私が皆さんに今日お伝えしたい事、それは、今日から

は、しっかりと、学問に励んでほしいという事です。

既にご存じと思いますが、今、医師、そして看護師の数が、不足しています。日本は今、極めて深刻な医師・看護師不足なのです。

特に北海道は深刻です。道内の至る所で、診療科の廃止や休診が相次ぎ、大学病院でさえ、必要とされる医師そして看護師を確保するのが難しい状況になっています。それが、結果として、医療格差に拍車をかけています。

都市と地方の医療格差は、イコール、命の格差につながりかねません。この問題を何とかしたい。その切実な願いの下、38年前に産声を上げたのが、ここ旭川医科大学です。

私もまた、38年前、皆さんと同じように、希望して一抹の不安を胸にこの大学の門をくぐりました。

以来、私自身、常に、この医療格差問題に取り組み、必要な医療を、必要なところに、必要とされる時に届けたいと、努力し続けて来ました。

その一つの形が、ここ数年取り組んで来ました入試制度の抜本的改革です。

地域枠を設けたのもその一つで、今回、医学科に入学された方の8割以上が、北海道出身者になりま

した。北海道で生まれ育った人、そしてもちろん、道外出身の方にも是非お伝えしたい事は、ここ、北海道の地域医療の厳しい現実に、目をそらすことなく、しっかりと直視してほしいという事です。

同様に、看護学科の皆さん、看護師不足も、今は、極めて深刻な状況です。

特に、国が「7：1看護体制」を推奨した事で、各地で看護師が大幅に不足し、十分な看護体制が組めない医療機関が相次いでおります。皆さんにも是非、ここ北海道の医療のために頑張してほしいと強く願っております。

とはいえ、今日ここで、希望に燃える皆さんに、どうしても言わなければならない厳しい現実があります。

毎年、進級、つまり上の学年に進む事が出来ない学生が、多くなって来たと言う事です。昨年医学科に入学した14人が、この4月に進級できませんでした。一昨年は10名、その前の年は13名留年しました。実に10人に一人の割合で、留年しています。その中には、入学試験で極めて高い成績を上げた学生も、留年組に入っています。

本日ご出席の、ご父母の皆さんにも、お子さんの学業成績についても、今後も引き続き、ご関心を十分持って頂き、是非、この厳しい現実を受け止めて下さい。今日からは、新入生の皆さん、しっかりと大学での学問に励んで下さい。

高校時代までの考え方は、捨てて下さい。大学での学びは、誰も、手取り足取り教えてはくれません。学ぶか学ばないか、それは偏に、皆さんにかかっているのです。

私が、あえてもう一つ言わなければならない事は、それは、ここ旭川医科大学は、国立大学だという事です。皆さんは、国民からの「税金」を使わせても

らいながら、「少ない自己負担」、ご両親の負担で、「最高水準の教育」を受ける権利を与えられています。そのことも、ぜひ忘れないで頂きたいのです。

入学すれば、クラブ活動もあるでしょうし、楽しいことはたくさんあると思います。でも、皆さんの優先順位は、学問をする事です。

さて、少し明るい話をしましょう。本学では、自分から学ぼうとする皆さんのために、必要な環境は全て揃っています。図書館や、インターネットが自由に使える学生サロンは是非活用して下さい。

また、「奨学資金貸与制度」も充実しています。看護学科は月額3万5千円、医学科は月額7万円の奨学金が貸与されますが、卒業後、本学に勤めた場合、この奨学金は返還する必要がありません。

さらには、「学外で実習を行うための移動に伴う費用」についても、学生の自己負担にしている大学が多い中で、本学では、全て大学が負担しています。

加えて、学生の「海外活動助成制度」や、「海外留学助成制度」もあります。留学や語学研修、外国との交流活動やボランティア活動の経費など、1件当たり20万円までを助成します。ただし、これらの海外留学制度は、現在希望者が多いので、第2外国語、すなわちドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語から選択ですが、これを取った学生を優先させる事に致しました。国際社会で通用する医療人になるためにも、是非、第2外国語を一つ取って下さい。

これらの制度に加えて、今年度からは「授業料特別貸与制度」を新たに設けました。経済的な理由で授業料が払えなくなった時には、一人で悩まずに、是非大学に相談して下さい。

さて、皆さんのために用意されたカリキュラムも

年々進化しています。

まず看護学科ですが、三つの大きな改革を行いました。

一つ目は、「早期体験実習」です。来月さっそく、医学科と合同で行いますので楽しみにして下さい。2年生の夏には、「医療保健福祉施設の現場」を体験して頂きます。

改革の二つ目。「看護実践の力を強化する」事を目的に、実習時間を大幅に増やしました。

改革の三つ目は、基礎科目の充実です。「対人関係」、「家族看護」、「医療安全」、「がん看護」、「国際・保健・看護」など、時代が求める看護師像に応えるための素晴らしい講義内容になっております。

一方、医学科では、三つの柱、すなわち、基礎教育、基礎医学、臨床医学の三つに加え、「共通科目」として、医師になるための「目的意識」や「職業・倫理観」を養うための「科目」を整備しました。「自学自習の学習態度」を養うチュートリアル教育、そして「医師としての職業・倫理観」を育てるための早期体験実習、それから「健康弱者のためのプログラム」などが、切れ目なく配置されています。

以上、概略を説明致しましたが、詳しい内容はガイダンス等で説明致します。重要な点は、本学には皆さんを立派な医療人に育て上げるための環境が、全て整っているという事です。あとは、ご自分次第です。

皆さんが本学に入学した、この2011年春という時期は、大震災の記憶と共に、日本の歴史に長く刻まれる事になると思います。

この未曾有の大災害から、私たちの国・日本が完全に立ち直るまでには、少なくとも10年以上かかるでしょう。

長い戦いが始まりました。

皆さんに出来る事、それは、命と向き合う医療人

として、一日も早く独り立ちを果たし、医師・看護師職者不足で苦しむ地域医療や、先端医療を身につけ世界に飛び込んでいく事ではないでしょうか。

夢半ばにして被災し、命を絶たれた若者がたくさんいます。彼らの夢を、皆さんが実現して下さい。

北海道の小さな町でも、待っている患者さんがいます。かけがえのないその命を、どうか、皆さんが守って下さい。

旭川医科大学は、皆さんの夢を、全力で応援します。

来るべきその日に、ここにいる182名全員が、一人も欠けることなく、医療の最前線で活躍することを信じて、学長からの、心からの歓迎と激励の言葉と致します。

入学、おめでとう。

平成23年4月6日

旭川医科大学 学長 吉田 晃敏



## 陽春の日に入生を迎えて

医学科 第1学年担当 高橋 雅治

今年は、学年担当として入学式に出席した。寒い日が続いていたためか、暖かな日差しが少し眩しかった。体育館の澄んだ空気の中で、新入生が点呼に合わせて次々に起立する。どの新入生も、期待と不安の入り交じった良い表情をしている。例年通りの清々しい式の始まりである。

式の途中で、新入生の表情に、いつもとは違う雰囲気を感じたことに気付いた。最初は、よくわからなかった。だが、ひとりひとりの表情を見つめているうちに、新入生の心持ちが少しずつ伝わってきた。それは、早く現場にでなければ、という意味のようなものであったと思う。

おそらく、3月11日の震災が、皆の心に影響しているのだろう。自分も、震災の日から、何かが変わったと思う。いまだ日が浅いこともあり、何がどう変わったのかを言葉にするのは難しい。少なくとも、生と死が隣り合わせであることを強く意識したので、尊厳のある人生を送りたいという気持ちが高まったことは確かである。また、余命についての信念が揺らぎ、仕事に優先順位を付けるようになったような気もする。この災害に遭遇したことの意味については、人生が続く限り考えていくことになるのだろう。

だが、今の時点で、はっきりと言えることがひとつある。それは、良い医療従事者を養成しなくてはという気持ちを、強く再確認したことだ。これは、本学の教員になったときからいつも持ち続けてきた基本的な意思である。だが、震災に遭遇して、改めて、この気持ちが心の奥底から衝動のように強く突き上げてきた。急ぎ、全力で、かつ、誠実に、我々は努力しなければならない。

新入生の皆さんの中にも、この春の自分はいつもと違うと感じている方々は多いと思う。惨状を伝え

るつらいニュースを繰り返し見て、うつ気味の方もいるだろう。自分が出来ることは何だろうと思い悩んでいる方もいるかもしれない。時には、こんなことをして良いのだろうか、という気持ちに突き動かされて、勉学に手が付かないこともあるだろう。現状を知れば、それは当然のことだ。

しかし、忘れないで欲しい。今、皆さんに最も要求されていることは、高度な知識と技能を持つ専門職者になることだ。もちろん、今できる援助をすぐに実行することはとても重要だ。だが、皆さんが、眼前の課題に対して誠実に取り組むこともまた、回りまわってこの社会に対する強力な援助となる。皆さんは、小手先の勉強で単位を集めて卒業するのではなく、学問の背景や本質を深く理解し、社会や自分に対して鋭い問題意識を常に持ちながら、生涯にわたって最先端の知識と技能を提供できる専門職者を目指さなければならない。

これは、皆さんに限ったことではない。この災害に遭遇して、この社会を構成する多くの人々が、共助の意思に加えて、各自の直面する課題に誠実に取り組まなければならない、という気持ちもまた強く抱いたに違いない。人と人が力を合わせて生きるとは、そういう意味ではないかと思う。

ふと気が付くと、入学式に参列している教職員も、新入生と同じような表情をしている。皆の顔には、良き専門職を急ぎ養成しなくては、という決意が、例年にも増して強く表れている。列席のご家族も、「みんな、頑張れ」というエールを送っているように見える。陽春の日差しまで、新入生を応援しているようだ。皆さんも、震災の年に医学生になったことの意味を、生涯にわたり考えて欲しいと思う。



## 国立の大学に入学した責任について

看護学科 第1学年担当 服部 ユカリ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんにはこれから国立の大学で学ぶことの責任を意識してほしいと思います。平成22年現在、日本には778大学がありますが、その中で国立の大学は86大学であり、全体の11%です。国立の大学の施設や設備は国が設置したものであり、さらに毎年多くのお金が教育のために国から大学にもたらされています。皆さんが本学で学ぶことができるのは、もちろん皆さんやご父兄の力によるものですが、それだけではないことを意識し、国立の大学で学ぶことの責任を自覚して行動を律してほしいと思います。それは、学生のうちは本分である学業に打ち込むこと、卒業後は、いろいろな方法で社会に貢献することです。そのような社会的責任が皆さんには課せられています。

また、看護学を大学で学ぶことから自ずと皆さんには期待されるものがあります。看護の専門職になる道はいくつかあり、22年度末現在では看護師の国家試験の受験資格を得ることができる学校は1085校あり、大学は145校で13%です。看護の専門職となるために必要な知識・技術・態度を身につけることという目的においては他の養成所と大学で大きな違いはないといえます。しかし、大学では学問として看護学を発展させていく基礎を学ぶという目的もあります。

そのためには論理的思考方法を身につけること、豊かな人間性を育むこと、“健全な批判精神”を養うことが肝要です。理論に基づいた知識や方法を受

動的に受け取るのではなく、自ら学び考え判断することです。そのためには書籍を読むことや説明力のある他の人から学ぶこともよいでしょう。

豊かな人間性とは、“異質さへの寛容さ”であるともいえます。自分とは異なる価値観・思考を受け入れることであり、自分の認識の排他性や狭小さに気づき修正していこうとする姿勢のことです。これは、看護職者は是非備え、発展させていく必要のあるものです。

“健全な批判精神”というのは、ただ他者を感情的に批判することではありません。知識を与えられて満足するのではなく、疑問を持ち、それを探求する精神のことです。“なぜそうなるのか？” “どうしてそういえるのか？” “理論的根拠はあることなのか？” “みんなが言っていることは正しいのか？” という疑問を持ち考えることを通して、より深く理解できたり、自分の間違いに気づいたり、考えることの楽しさを発見したり、ときには思いもかけないことがわかることもあるかもしれません。何も疑問を持たなければ、個人の成長も看護学の発展もありえません。

学ぶ厳しさと楽しさがわかるような経験をたくさんしてください。大学で学んだことや経験はその後の皆さんの価値観や人生に大きな影響を及ぼします。そして国立の大学出身者として社会に貢献できる人間になるよう期待します。また、私もそのような人材を育てるのだという自覚を持って皆さんに対してしたいと思います。







## 新入生を迎えて

医学科第6学年 多田裕樹



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！入学式からの短い期間ですが、様々なイベントがあったり、新しい友達ができたりと充実した毎日を送っていることと思います。旭川医大での生活には少しずつ慣れてきましたでしょうか。

大学生としての生活は、高校などと比較して自由度の高いものとなると思いますが、その反面、各々の自主性に委ねられる部分が大きくなります。さらに社会からは、医学生、看護学生として、将来、高い技能を備えた医療人となることが求められています。

皆さん自身にも、しっかりとした医師・看護職者・研究者などになりたいという思いと、楽しい学生生活を送りたいという思い、どちらもあってはいないでしょうか。それを両立するにはどうすればいいのか疑問に感じているかもしれません。そんな疑問に、少しでも参考になればと、僕自身の考えや感じていることを書かせていただきたいと思います。

まず、医療従事者として必要な知識・技能というのは、非常に膨大なものです。そもそも生涯学習の姿勢が必要とされる職ですが、学生のうちに修めて

おくべき内容だけでも、皆さんに並大抵でない努力を要求します。もちろん大学の先生方は、その習得のために講義や実習を行ってくださいますが、ただ椅子に座って話を聞いていれば人の命を預かることができるようになる、などということは決してありません。

それでは、医学生・看護学生が学ぶうえで必要なものとは何なのでしょう。僕自身は『意志』であると考えています。すなわち、『何がしたいのか』自分が将来にわたり何をしたいのか、はっきり決まっている人、まだぼんやりとしている人、それぞれだと思います。僕は、皆さんがその意志を自分の中に見出す、もしくはすでにある意志を育み大きくしていく、それがこの大学生活で大切なことなのではないかと思っています。

きっかけはどこにあるかわかりません。講義中の先生の一言であったり、部活動やアルバイトでの経験からでもいいでしょう。ボランティアに参加することや、色々な人とのふとした出会いや会話だったりするかもしれません。それはどこにでもころがっているものですから、皆さんには感受性を豊かにして、積極的に色々なことに挑戦し、自分の意志を育ててほしいと思います。そして何よりその姿勢こそが大学生活を楽しく充実したものにする秘訣です。必ずや皆さんの世界、知識や人間関係などを広げてくれることでしょう。

いかがでしょうか。皆さんが旭川医大で素晴らしい学生生活を送れること、そして素敵な医療人への一歩を踏み出せることをお祈りして、歓迎の言葉とさせていただきます。



## 新入生を迎えて

看護学科4学年 梅澤晴花



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい環境には慣れたでしょうか。私自身あっという間の大学生活を過ごし、実感もないまま4年生になってしまいました。どう過ごしても4年間は4年間、6年間は6年間です。どうぞ充実した大学生活となるよう

過ごしていただけたらいいなと思います。

私が大学生活を過ごしてきて大切だと感じたことは、仲間と協力するということです。大学という環境で、様々な人との出会いがあると思います。同じ旭川医大看護学科でも、看護師を目指す人、保健師、助産師を目指す人、看護師の中でも外科に興味がある人、内科に興味がある人など学ぶ土台は一緒でも目指すところは人それぞれです。その中で、仲間と協力し、何かを成し遂げるといことは素晴らしいことだと思います。まずは自分のことをよく知り努力すること、そして他人のことをよく知ろうとする

こと。性格や、得意不得意、価値観などを知った上で集団の中での自分の役割は何か、自分や他人が力を発揮できるのはどのポジションかということなどを各々が考え協力するということは、いずれ社会人となって医療の現場で働くであろう私たちには重要な能力だと思います。グループワークや実習、部活など集団で1つの目的に向かって活動する機会はたくさんあるので是非、仲間と協力するという意識をいただけたら嬉しいです。

また、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていただけたらいいなと思います。これは私自身の目標でもありますが、大学という環境で勉強するということは、自分一人の力でできることではありません。家族、友達、先生方、実習先の職員の方々、食堂の調理師の方々、清掃してくれる方々などたくさんの方々に支えられて学ぶことができるということを忘れずに過ごしていけたら、自分が何をすべきなのが見えてくるのではないかと思います。これは先に挙げた仲間と協力するということともつながっていくと思います。

長々と堅苦しいことを書きましたが、大学生活という限られた時間の中でたくさんの方のことを吸収し、楽しんでください。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 齋藤 僚 太



旭川医科大学に入学して早くも1ヶ月が経とうとしています。4月の初め、やや寒い旭川に来て新生活の準備に気をとられ、ふと気がつくとう入学式でした。その後すぐに新歓合宿がありました。新歓合宿では、優しい先輩が学校生活について詳しく教えていただき、またその後の宿泊先では、多くの人と話す事ができ、そこから多くの友達ができました。そういった意味では、合宿に参加してよかったです。

私は、新歓合宿の時に参加させてもらった陸上部にそのまま入部しました。私は、大学に行ったらもう陸上はしない、絶対やるものかと心に決めていたのですが、優しい先輩が多くいた事や部活の雰囲気がとても良かったというのもあって、結局柔らかな

決心を捨て、もう一度陸上をやる事にしました。旭医陸上部として、立派に活躍出来るのはまだ先になりそうですが(なにせ1年半のブランクがあるので)、将来的には先輩にも負けない走りをして、なおかつチームに貢献できるようになりたいです。

最後に私の将来の目標は患者のニーズに合った、そして患者のためになる医療が出来る医者になる事です。しかしそれを実現していくには幾つかの課題があります。高度な医療に対応するために、自分自身の技術や知識を磨く事や、チーム医療に即した医療をするためのコミュニケーション能力や協調性、患者の事を知ろうとする態度などです。私はともに入学した旭川医科大学の仲間と共に医療の技術や知識、患者への態度などを学びそしてお互いを高めあっていく事で、これらの課題を少しずつ克服し、また生涯にわたって勉強する事で、最新の医療にも対応できるようになりたいです。そして将来、私が生まれ育った北海道に対して、私ができる多くの医療貢献をすることで、北海道における医療の問題を少しでも解決していきたいです。



## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 長谷川 楓



入学してから1ヶ月が経ちました。4月当初は、初めての大学生生活、初めての一人暮らしで不安なことばかりでしたが、今ではだいぶ慣れてきて楽しい毎日を送っています。

入学式直後の新歓合宿では、先輩方から大学のいろいろな話を聞くことができました。新入生とは、医学科だけでなく看護科や編入の3年生の方とも話せて、仲よくなることができ、とても楽しい時間を過ごせました。少しですが、大学生の雰囲気を味わうことができました。また、部活の紹介もわかりやすくて、どの部活に見学に行こうかだいたい決めることができました。

結局部活は、高校時代からやっていた音楽とダンスを続けるために、ロック研究会とダンス同好会、

新しいことに挑戦するために、水泳部に入りました。自分の頑張り次第で、いくつも兼部できるのが大学らしいなと思いました。

先日、水泳部の新歓合宿がありました。私は水泳経験がなかったので、泳ぎ方を基礎から教えて頂いたり、みんなでリレーや水球などのゲームをして遊んで、楽しい2日間でした。6年間学生生活があるので、何か新しいことを始めるのも、充実した学生生活を送ることができる一つの要素になると思います。学校祭に向けて、発表する機会もあると思うので、ロック研究会とダンス同好会も意欲的に頑張っていきたいです。

また、4月が終わり5月からは本格的に授業が始まります。これからは、チュートリアルや早期体験実習など、高校ではなかなかやらないようなことがたくさん待っています。医師に必要なのは、生涯学習する態度だという話を聞きました。そして、学生の本業は学ぶことです。気を抜かずに、能動的な学習を心がけ、楽しい大学生活を送っていきたいと思っています。

## かけがえのない6年間に!!

医学科第1学年 朝倉峻介



部活勧誘の波でなかなか玄関まで辿り着けなかった入学式当日から、早くも一か月が経ちました。この一か月の出来事は入学したての自分たちにとってはどれも新鮮なことばかりで、新しい友達や先輩方との出会いに心躍らせながら、

忙しくそして楽しく毎日を過ごしてきました。一日千秋の思いで結果発表を待っていた一か月とは対照的に入学してからの一か月は本当にあっという間で、この文章を書くにあたりようやく入学できた実感が湧いてきたところです。

旭川医科大学に入学して一番強く印象を受けたことは、やはり部活が盛んということです。様々な部活から勧誘を受け実際に練習や飲み会に参加したりしながら新歓期間中フルに悩み、自分はアイスホッケー部に入部しました。どの部活の先輩方も優しく受け入れて下さりとても有り難かったです。また新

歓合宿の時に既に入部していたロック研究会とギター部は、運動部と兼部している先輩方がほとんどで、ロック研究会やギター部を通してそうした他の部活に所属している先輩方とも交流を深めることができました。自分がアイスホッケー部に入部することになった最初のきっかけもロック研究会の新歓ライブの時に話しかけて下さった先輩です。

歓迎会を開いて下さったり、わからないことを教えて下さったり、毎回ごはんを奢って下さったり、教科書をいただいたりと先輩方には本当にお世話になり、感謝しています。

新歓期間が終わって部活の練習も通常どおり始まり、ゴールデンウィークにはアイスホッケー部の合宿に行ってきました。来月には学校祭も控えています。また勉強の方も、小テストではあるものの自然科学入門のテストを2回、基礎生物学実習2回にレポート提出と徐々に本格的になってきました。これから授業内容も難しく実習も大掛かりなものになっていき、どんどん大変になっていくに違いありませんが、自分が今最優先すべきことは何なのかを見定め、学年が上がっても初心を忘れずに旭川医大での6年間を人生の中でかけがえのないものにしていきたいと思っています。



## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 佐々木 有



私がこの旭川医科大学に入学してから、ひと月が経ちました。夢であった医師になるという目標にぐっと近づくことができたという喜びとともに、新生活の中で充実した忙しさを感じながら過ごした1か月はあっという間に過ぎ去って

いきました。地元を離れ、新しい環境の中での生活に最初は多少の不安を抱えていましたが、今は友達にも恵まれ、楽しい毎日を送っています。

4月は新歓合宿があったり、各部活の新歓があったりと楽しいこと続きでしたが、本格的に授業が始まり、これからは今までよりもっと忙しい日々が待っていると思います。大学の授業は高校や予備校で聞いてきたものとはまるで違い、自ら学んでいくんだという能動的な姿勢がとても重要だと知りまし

た。覚えなければならない知識も、今までとは比べものにならないほど多くなります。これから順に学んでいくにあたって、くじけてしまいそうになることがあるかもしれません。そんな時には、入学前の勉強に対する姿勢を思い出して、時には息抜きもしながら、頑張って取り組んでいきたいです。

私が医師になるという夢を抱いたのは、困っている人の力になりたいという思いがあったからです。今でもその思いに変わりはなく、むしろ、大学に入ってからますますその気持ちは強くなりました。最先端の地域医療に力を入れて取り組んでいるこの大学で学べることをとても嬉しく思います。自分自身の力を高められるような機会をけて逃さないように、そして先生柄に御指導をいただきながら、これからの限りある学生生活を実りある、学びの多いものにしていきたいです。そのためにも、どんなことにも真面目に取り組み、けしていい加減な気持ちにならないように気を付けて、1日1日を大事に過ごしたいと思っています。

## 看護師という選択

看護学科第1学年 大 長 昂



私はこの大学に推薦入試で合格して入学しました。それはセンター試験を受けたり、小論文を書いたりするよりも面接で人と直接話すほうが得意と考えたからです。合格発表の日は朝から緊張して授業もあまり集中できなかったのを今

でも覚えています。

合格が決まって一安心でしたが不安なこともたくさんありました。まずは勉強です。大学という勉強が難しそうないイメージがあり、ついていけるか不安でした。また一人暮らしも始めなければいけなく、料理や家事がしっかりできるかなど不安なことがありました。しかしそれ以上に楽しみや期待といったプラスの気持ちのほうが大きかったです。親元を離れて自分一人で生活すること、新しい友達や先輩と出会えること、そして自分の将来の仕事に直接関係

のある分野の勉強ができることなどたくさんあります。

実際に大学に入学して1か月ぐらい経ちますが、今では勉強や部活動などと充実した日々を送ることができています。大学の講義は高校以上に自ら能動的に学ばなければいけません。ノートも板書を写すのではなく自分で大切だと思うことを自分なりにまとめて記録し振り返って見てもわかるようにしなければいけないと思います。レポートが毎回出るような授業もあり、色々な人の意見や考えを聞いて自分の意見をまとめたりと、あまり経験したことのない作業で大変なこともあります。部活動では私はバスケットボール部に入りました。ですがどの部活やサークルを見学にいってもとても優しく接してもらい、部活動とは関係なく親しくしてくださる先輩もできました。

私は将来やりたいことがあります。それは専門看護師の資格をとることです。高校生の時から考えていましたが、大学のある講義で専門看護師の映像を見る機会がありよりいっそう憧れ目指したいと思いました。そのためにも初心を忘れずに後悔のない大学生活を送りたいです



## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 山 田 美 穂



前期合格発表の日の朝10時、私は家のパソコンで母と一緒に合格発表を見ましたが、そこに私の番号はありませんでした。それほど落ち込みはしなかったのですが、やはり悔しく、専門学校から北大に編入してやろうと意気込んでい

ました。

そんななか、大学から奇跡の、そして運命の電話がかかってきたのです。とても驚き、信じられませんでした。とても嬉しかったのですが、もう「北大に編入する」という目標があったので、少し入学するか考えてしまいました。しかし今は、この大学に入学することができて本当によかったと、あの電話の時より強く思っています。

もうすぐ入学から1か月が経ちます。大学生活は自分が考えていたよりはるかに忙しく、はるかに楽

しいです。まだ生活のリズムをつかめきれずにいて、いつも時間が足りないと感じます。しかし、時間が足りないからこそ、いままでよりもっと、少しの時間も有効に使っていかねばならないと痛感しています。楽しむことだけに重点を置かずに、やらなければならないことはしっかりやっとうと思えます。

大学生活では、看護についてはもちろんですが、それだけではない、多くのことを学ぶことができると思います。それは辛いことからかもしれないし、楽しいことからかもしれません。しかし、どんな経験もすべて自分の財産にして、将来活かせるようにしていきたいです。多くのひとと関わり、多くのことを経験し、4年後、いまよりも一回りも二回りも成長して卒業していきたいです。

最後に、私がこうして大学生活を送ることができるのは、家族のおかげです。毎日がこんなにも楽しいのは、友人や先輩方のおかげです。勉強を教えてくれるのは先生方です。本当にたくさんの方々のおかげで今の私があることへの感謝を忘れずに過ごしていこうと思えます。

## ◎外国人留学生在籍者一覧

平成23年4月1日現在

氏名	国籍	学年	期間	所属
Ahmed Abdul Karim Talib アハメド・アブダル・カリム・タリブ	イラク	博士課程 第4学年	2008.4.1～ 2012.3.31	医学専攻
Kamel Mohamed Khatiri Mahamoud カメル・ムハメド・カトリ・マハムド	エジプト	博士課程 第4学年	2008.4.1～ 2012.3.31	医学専攻
MA, YANJU (马艳菊)	中国	博士課程 第4学年	2008.4.1～ 2012.3.31	医学専攻
Al-Janabi Nabaa Basim Jabbarb ナババシムジャバー	イラク	博士課程 第3学年	2009.4.1～ 2013.3.31	医学専攻
Sharifi Abdul Muhib シャリフィ・アブドル・ムヒブ	アフガニスタン	博士課程 第2学年	2010.4.1～ 2014.3.31	医学専攻
Md.Rafiqul Islam Khan モハメッドラフィクルイスラムカーン	バングラデシュ	博士課程 第1学年	2011.4.1～ 2015.3.31	医学専攻
Chen Xi (陳錫)	中国	博士課程 第1学年	2011.4.1～ 2015.3.31	医学専攻
Hwang Insu (黄仁秀)	韓国	博士課程 第1学年	2011.4.1～ 2015.3.31	医学専攻
ADDO LYNDA アドゥリンダ	ガーナ		2011.4.1～ 2013.3.31	研究生

## 平成23年度 大学院入学者名簿

博士課程

(平成23年4月1日現在)

氏名	専攻	研究指導教員
阿部泰之	医学	松野丈夫
飯田高史	医学	岩崎寛
井川哲子	医学	飯塚一
石田美織	医学	籠川浩幸
大野晋治	医学	籠川浩幸
小野寺美子	医学	岩崎寛
菊地信介	医学	笹嶋唯博
小鷹丈彦	医学	柏柳誠
佐々木祐介	医学	松野丈夫
高橋桂哉	医学	岩崎寛
田端一基	医学	西條泰明
堂腰達矢	医学	高後裕
土岐康通	医学	高後裕
内藤澄悦	医学	伊藤喜久
橋爪和純	医学	柿崎秀宏
藤代大介	医学	羽田勝計
柳町剛司	医学	羽田勝計
善岡尊文	医学	籠川浩幸
Md. Rafiqul Islam Khan	医学	谷口隆信
陳錫	医学	西川祐司
黄仁秀	医学	若宮伸隆

修士課程

(平成23年4月1日現在)

氏名	専攻	研究指導教員
伊東沙希	看護学	望月吉勝
菊地まり子	看護学	北村久美子
小西智子	看護学	望月吉勝
佐々木俊子	看護学	岡田洋子
佐藤とも子	看護学	望月吉勝
柴田孝	看護学	作宮洋子
砂原彩加	看護学	北村久美子
中村恵里子	看護学	黒田緑
早坂象太	看護学	服部ユカリ
樋口和央	看護学	作宮洋子
増田千絵	看護学	加藤千津子
水口和香子	看護学	北村久美子
矢野芳美	看護学	岡田洋子
若井明子	看護学	作宮洋子
和田尚子	看護学	稲葉佳江
長谷川美香	看護学	濱田珠美

## 平成22年度 学位記授与式

平成22年度学位記授与式が、3月25日（金）10時30分から本学体育館において挙行されました。

本学の室内合奏団が奏でる調べのなか入場し、医学科93名、看護学科67名、合わせて160名の卒業生一人一人に学長から学位記が授与されました。

引き続き、博士課程12名、論文博士4名、修士課程11名にも学位記が授与されました。

なお当日は、別室にて成績優秀者への学生表彰も行われました。

式の終了後は、学生食堂を会場として祝賀会が開催され、医学科・看護学科それぞれの学年担当の先生や同窓会の会長からの祝辞、在校生から送辞が贈られ本学の学生としての最後の一時を噛み締めているようでした。



▲学位記



▲学位記の授与



▲卒業生との握手

## 平成23年度 入学式

医学科・看護学科の入学式が4月6日（水）10時から本学体育館において挙行されました。

式では、医学科112名、看護学科60名、看護学科第3学年編入生10名、合わせて182名の新入生を代

表して医学科 秋田 滉一さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、大学生活の第一歩を踏み出しました。



▲入学生代表宣誓



▲吉田学長祝辞

## 平成23年度 医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成23年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月7日（木）8日（金）の2日間にわたり実施されました。

一日目は、9時から全員が看護学科棟大講義室に集合し、千石学長補佐の挨拶に始まり、指導教員の紹介等オリエンテーションの後、吉田晃敏学長により「新1年生に望むこと」と題しました講演が行われました。今年度は3Dメガネを使用し、本学の遠隔医療の一端を入学初日から垣間見えたことと思います。続きまして「2009カリキュラム履修上の注意」と題しましたガイダンスが解剖学講座（機能形態学分野）吉田成孝教授 並びに看護学講座 望月吉勝教授により行われました。続きまして本学医学部微生物学講座の若宮伸隆教授による「エイズの現状とその課題について」の講演が行われ午前の部が終了しました。

午後からは、グループ毎に分かれて救急医学講座 藤田 智教授の指導の下に先輩学生や卒業生からの心臓マッサージの指導などの救急蘇生実習と旭川ろうあ協会のろう講師2名により手話の講習を受け、ぎこちない動きの中にも時折笑顔も見え、少し緊張が解けて、医療現場に携わる道を選んだ者として、雰囲気十分に味わえたところで一日目が終了しました。

二日目の午前中は、グループ毎に分かれて「大学生活をいかに過ごすか（教員・先輩・患者様との接し方）」、「どのような医療従事者を目指したいか」という課題についての討論とグループ代表による発表会が行われました。最初はぎこちなかった討論も時間が経つにつれて真剣さを増し白熱した意見を戦わせるほどになりました。

午後からは、旭川消費者協会の山下三千世氏による「悪質商法の事例と防止策」、引続き保健管理センターの川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師により「健康な学生生活を送るには－ほけかんとどう付き合うか－」と題した学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明が行われ、続いて本学内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）鈴木康秋講師（学内）による「お酒との正しい付き合い方」、最後は内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」の講演を聞き、2日間の全日程が終了しました。



▲救急蘇生実習



▲手話の講習



▲川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師

## 教員の異動

H23.3.31	定年退職	医学部	化学
H23.3.31	定年退職	実験実習	機器センター
H22.3.31	辞職	医学部	英語
H22.3.31	辞職	医学部	病理学講座（免疫病理分野）
H22.3.31	辞職	病院	第二内科
H22.3.31	辞職	病院	周産母子センター
H22.3.31	辞職	病院	経営企画部
H23.4.1	採用	医学部	数学
H23.4.1	採用	医学部	英語
H23.4.1	採用	教育センター	
H23.4.1	昇任	医学部	生化学講座（機能分子科学分野）
H23.4.1	昇任	医学部	微生物学講座
H23.4.1	昇任	病院	精神科神経科
H23.4.1	昇任	病院	周産母子センター

准教授	平塚	寿章
准教授	田中	邦雄
教授	内藤	永敏
教授	立野	正倫
講師	平野	史仲
講師	林	時伸
講師	山上	浩志
教授	八ツ井	智章
講師	江本	博昭
講師	井上	裕靖
講師	山崎	和生
講師	大谷	克城
講師	阪本	一剛
講師	長屋	建

## 医大祭2011 “UNI ver City” 開催に向けて

旭川医科大学大学祭実行委員会  
実行委員長 萱場 幸太郎



長い冬、短い春を通り抜け、空の青に新緑がよく映える、活力に満ち満ちた季節となりました。季節に呼応するかの様に、医大祭へ向けた土気もみなぎってきています。

今年度は、6月10日（金）、11日（土）、12日（日）の3日間（一般開放は11、12日）で医大祭を開催する運びとなりました。テーマ“UNI ver City”のもと、学生が楽しくお祭り騒ぎをすることはもちろんのこと、市民の皆様にも心から楽しみ、医学に少しでも興味を持っていただけるよう、準備を進めてきました。例年同様、いえ、それ以上の様々な企画をご用意して、皆様に「健康の知識」、「若者の活力」をお届けいたします。

「医学展・健康チェック」のコーナーでは、旭川医科大学が総力を挙げて推進している“ウェルネットリング”を活用して、皆様の健康生活のお手伝いをさせていただきます。

11日（土）の目玉企画「講演会」は、“チームバチスタの栄光”などでご高名な、海堂尊先生にお越しいただきます。我々学生も心待ちにしている企画です。

12日（日）には、例年大好評の「お笑いライブ」がやってきます。“笑いは病気の特效薬”、笑って健康を引き寄せましょう。同日、「公開講座」では、臓器移植に関して、当大学の古川先生に講義をしていただきます。法改正で、大きく揺れ動いている日本の移植医療について、一緒に考えてみませんか？

このほか、模擬店や花火など、例年大変好評をいただいている企画も、さらにパワーアップしてご用意いたしております。

6月10日、11日、12日、旭川医科大学でお会いできることを楽しみにしております。

「UNI：ともに作り上げる」＋「ver City：市民の皆様と」＝「UNIVERSITY：大学（医大祭）」、一緒に目いっぱい楽しみましょう！！

### 追記

3月11日、東北関東大震災で被災された方々に、旭川医科大学学生会一同、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を切に願っております。我々も、微力ではありますが、復興のお手伝いをさせていただきます。皆様も、なにとぞご協力をお願いいたします。

